工業用ヒーター新工場

生産能力2倍 新熱工業、開発迅速化

【水戸】新熱工業（茨城県ひたちなか市、大谷直子社長、029・264・2772）は、工業用ヒーター製造の新工場棟を本社に完成、9月に本格稼働する。生産能力を最大2倍に高め、需要の変動に柔軟に対応できる体制を構築する。製品開発体制も効率化する。投資額は明らかにしていないが、10億円規模とみられる。競争力強化により、2022年9月期以降の売上高を18年同期比約3億円増の20億円に引き上げることを目指す。

新熱工業がひたちなか市の本社に完成した新工場

次世代車・航空機など 新規分野の開拓 視野

新熱工業は電熱線を絶縁材とともに金属管内に封入した「シーズヒーター」を主力とする。新工場棟は本社の隣接地を新規に購入し、一部5階建て延べ床面積3826平方㍍を建設。直管状のヒーターの製造から曲げ加工、組み立てまで一連の工程を本社に導入、生産の効率化とリードタイムの短縮を図る。

同社のシーズヒーターの年産能力は現在約7万本。新工場棟の完成で、その約2倍の生産量に対応できるスペースを確保した。実際の生産規模は本格稼働後も現状を維持する方針だが、主要な取引先である液晶・半導体製造装置分野の需要の変動に柔軟に対応できるようにする。

また新工場棟建設に併せ、本社の旧食堂スペースを改装し、延べ床面積約300平方㍍の事務所を整備した。技術営業や設計、製造、品質管理などさまざまな部門の従業員が一つの事務所で働けるようにして、意思疎通の円滑化を促す狙いがある。新製品開発などの業務を効率化し、次世代自動車や航空機など新規分野の開拓にも結びつけたい考えだ。

新工場棟内には食堂を新たに整備したほか、休憩場所や更衣室、シャワー室など従業員の福利厚生設備を充実させ、働きやすい環境を整備した。

大谷社長は「イノベーションが生まれやすい環境をつくっていきたい」と話している。